

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190103768		
法人名	(株)グレースホーム		
事業所名	グループホームあすか		
所在地	岐阜県岐阜市美島町1丁目18番地		
自己評価作成日	2019年6月25日	評価結果市町村受理日	2019年8月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhou_detail_022_kani=true&i_gyosyoCd=2190103768-00&ServicCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	2019年7月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方の入所年数が長く平均年齢が上がり、重度化している為、外出などの行事などは限られた方になっていますが、ボランティアの方に来て頂き、施設内での行事を楽しんでいます。本人、家族の希望に添い、昨年度から3名の方を看取らせていただきました。長年、家族のように生活された方々を主治医、看護師、職員、ご家族様と力を合わせて、穏やかな最期を看取ることができました。今年満100歳を迎えられた入居者の方がみえます。開設以来初めての事で、大変嬉しく思っています。今後も重度化している入居者の方の看取りに力を入れ、当施設に入り幸せだったと思っただけのようなグループホームを目指していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者と職員、家族と職員、職員同士で築いてきた絆と信頼関係を大切にしたケアを提供している。利用者の生きがい役割として、モップ掛け、洗濯物畳み、食器拭き等を担ってもらい、利用者・職員双方が支え合い感謝し合える関係にしている。「最期は事業所で」の思いに応え、医師、訪問看護師、職員と協力し、家族と共にその人らしい穏やかな看取りをしている。利用者の重度化や事業所の耐震性や環境面の問題から、立地条件が異なる場所へ移設する予定で、地域との関わり方を意欲的に検討し、新しい方策を模索中である。100歳を迎えた利用者、家族を招待してお祝い会を行っている。利用者の安全面への配慮や職員が働きやすい職場になるように、より良い支援の向上を目指している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「人と人との絆を大切に思いやりの心を持ちいつも笑顔で介護活動に務めます」を職員全員で共有し実践しています。	事業所内に理念を掲示し、ミーティング時に理念に沿った支援であるかを振り返っている。不安や疑問が生じた場合は、職員間で随時話し合い、家族の意見を聞き、声かけや支援の方法を工夫して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域活動に参加し地域貢献できるよう努めています。	管理者が、地域のゴミ当番や見守り隊等に参加し、住民からは野菜の差し入れがある。歌や楽器演奏のボランティアと交流しているが、利用者と地域との関わりが希薄である。	利用者の重度化や事業所の環境面の問題はありますが、地域との関わり方を職員で検討中であり、移設事業所では地域の一員としての交流に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩の時など、地域の方々に挨拶をし、認知症の方々に対する偏見や誤解を払拭できるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営会議を開催し、市役所職員、包括センター職員、家族、入居者の方に参加して頂き、事業所の取り組みや、現況報告をし意見交換し、サービスの向上に活かしています。	事業所の現況を伝え事故報告を行い、参加者から意見を聞いている。出た意見は職員と共有し運営に活かしている。来年度に移設予定の新築事業所では、会議で出た意見を設計に取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で施設の取り組みなどを報告するほか、電話や訪問し分からないことなど相談し、助言を受けています。	移設に関する相談や書類提出等で、市に向く機会も多く担当者に実情を伝えている。一部利用者の面談に毎月担当者の来訪もある。電話やメールでも連絡を取り合い、助言や指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時に身体拘束について話し合いをしどのようなことが拘束になるのか常に考えながら介護にあたっています。過度な見守りや声掛けも、入居者の方にとっては不快感や苦痛になっていないか話し合い実践しています。	「身体拘束廃止に関する指針」を定め、言葉での抑制や暴言にも注意し、職員で対応を話し合い、拘束しないケアを提供している。玄関は施錠していない。利用者一人ひとりの生活歴や性格を共有し、その人に合う言葉掛けや支援を工夫し寄り添う姿勢で対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護に関する研修に参加し、学んだことをミーティング時に、課題として取り上げ、日々の業務を振り返り、虐待防止に努めています。		

グループホームあすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身寄りのない方は、岐阜市社会福祉協議会の日常自立支援制度や後見人制度を活用しながら支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、本人、家族の方と十分話し合いをし、理解、納得して頂き契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族の方から苦情が出たとき、ミーティングで話し合いをし、管理者が運営推進会議で発表し、相談、助言を受け運営に反映させています。	利用者にはゆっくりと聞き、家族には些細な事も電話や面会時に報告し、意見や要望を聞いている。定期的にメールでやりとりする家族もいる。書類の代行手続き、身体障害者手帳の申請等、家族の要望に応じている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に意見交換や提案を聞いたり個別に意見を聞き運営に反映できるように取り組んでいます。	管理者も現場で業務に従事しており、職員とは話しやすい関係である。ミーティング時は、職員全員が一言ずつ発言する体制にして意見を出しやすくしている。日課の体操や個人記録の書き方を見直した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃の勤務状況や努力を評価し給与の見直しや賞与を支給できるよう努めています。職員数に余裕がない時でも少しでも職員の負担を考慮し勤務時間を見直したり他部所の職員が現場に入り協力しながら業務を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に、外部から講師の方に来て頂き、内部研修会を行い、外部研修に参加し、職員がスキルアップできるよう取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括センターの会議に参加し、同エリアの事業所の方との意見交換し、他事業所の優れた点などを参考にさせていただきながら、サービス向上にとりくんでいます。		

グループホームあすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、本人の不安な事や困りごとを傾聴し、また必要に応じて体験入所をしていただき、本人に寄り添い安心できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必要に応じて家族との面談を重ね、家族の思いを傾聴、共感したり入居してから利用者の様子を報告するなどし、信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	モニタリングを行い、どのような支援が必要かを見極め、他のサービスも検討しながら対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者個々の能力を把握し洗濯や食器洗い掃除などを職員と共に行い、協力し支え合える関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設任せにならないように、定期的に現在の様子をみに来て頂いたり、本人が不安な時などには、家族の方に電話をかけ、話をしてもらうなどして本人を共に支え合える関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人の方など大切な方との関係が途切れないよう面会に来られたり、定期的に自宅に戻り家族と過ごしていただいたり関係が途切れないよう支援しています。	家族や馴染みの方に電話をかける支援をしている。親族や友人の面会時は、再来訪をお願いしている。自宅での外泊、昼食、美容院や買い物等に家族に協力を得ることで関係が途切れないようにしている。家族を招待し100歳お祝い会を行った。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から入居者同士の関係性を把握し、気分ののらない方には、仲の良い利用者と一緒に声をかけてみるなど、入居者同士が助け合い励まし合いながら生活できるよう支援している。		

グループホームあすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了すると、本人、家族と疎遠になっているのが現状です。契約終了後も必要に応じて相談援助等ができるよう取り組んでいきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に話を聞く機会を設け本人の希望や意向を聞き可能な限り支援できるよう務めています。	日頃の会話や個別対応時に発した言葉や思いを記録し職員で共有している。困難な人には、表情や仕草から把握したり、選択肢で意思表示しやすくしたり、家族に確認する時もある。喫煙や飲酒の希望も叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、友人などからこれまでの生活歴や趣味、暮らし方など情報収集をし、その人らしい生活が送れるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、入居者の気分や体調に合わせて無理のない様過ごせるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い、管理者、ケアマネ、職員、本人、家族と話し合いをし、気づき、アイデアを反映し現状に合わせた介護計画を作成しています。	入居時は現状に沿うように1ヶ月毎に介護計画を作成している。職員で毎月満足度と評価、達成度、今後の対応のモニタリングし、本人、家族、医師の意見も聞き計画を立てている。必要に応じて見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や、職員の意見をもとに、管理者、ケアマネと話し合いをし、利用者の方の状態にあわせて、ケアプランの変更をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医、家族、本人、と話し合いをし訪問看護を使いながら支援しています。家族の送迎による通院が出来ない場合は、職員による通院介助を行っています。		

グループホームあすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天候の良い日には、近くの公園に散歩へ出かけたり春には施設近くの川沿いに桜見学に出かけたり、スーパーに買い物へや喫茶店へ出かけるなど地域資源を利用し楽しく暮らせるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に以前から通っている病院に家族の方と通院されたり、当施設の協力医では24時間対応にて急変時にも敏速に対応し入居者の方が安心できるよう支援しています。	本人や家族の希望で協力医に変更する利用者が多い。家族とかかりつけ医を受診時は、書面を渡し受診後に結果を聞いている。訪問看護は全員が利用し、歯科医や歯科衛生士の利用は、希望に合わせている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と提携し、定期的に往診して頂き入居者の健康状態を共有しています。また体調不良時や医療面での不安があれば直ぐに報告、相談し必要に応じ、往診し対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを活用し、日々の様子を細かく説明し定期的に本人の様子を見に行き担当看護師から現在の様子を聞き退院後の対応の仕方などを話しあいながら医療機関の方々との関係を築いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、本人、家族と話し合いをし意思や意向を尊重しながら終末期の方針を決め、主治医、訪問看護師、職員、家族で協力しながら可能な限り住み慣れた施設でその人らしい最期を迎えられるよう取り組んでいます。	摂取量の低下時は医師の指示で栄養剤を補給している。重度化した時は医師が家族に説明し、同意書で意向を確認している。医師、訪問看護師、職員が方針を共有しつつ看取りの支援をしている。「最期は事業所で」の思いに応え、病院を退院し看取った事もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを置いていますが、訓練等は行えてないのが現状ですが、ミーティング等で事例検討し対応の仕方等話し合っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、避難訓練を実施していますが、夜間に災害が発生した場合少ない人員で避難誘導ができるか不安がありますが、日ごろから地域の方と交流を深め助け合えるような関係を築いています。他県で起きた災害などを事例検討し、備蓄品を確保しています。	夜間想定を含め、消火訓練、地震対応に備えた避難訓練を実施している。ポータブルトイレ、レトルト食品、乾パンや水等を備蓄している。地域の防災訓練に参加し、水害時に住民の避難場所に3階部分を提供できる申し出をしているが、訓練時に住民の協力が得られていない。	地域連携の重要性を認識し、様々な機会に関わり方を検討されているが、住民の協力が得られるよう更なる工夫が望まれる。

グループホームあすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や人柄を把握し呼び方や態度、接し方などに十分配慮し相手を敬う気持ちを大切にし、対応しています。	一日の生活時間は、おおよそ決まっているが、生活歴や思いを尊重し、食事や入浴も無理強いせず、その人が希望する暮らし方を支援している。表札は自由掲示にし、入口に飾り物を目線に合わせて吊す人もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が本人に寄り添い思いや希望を傾聴し自己決定できるよう困難な場合相手の気持ちになり支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで、その日の体調や気分に合わせてレクリエーションや散歩や体操など本人の希望に合わせて無理なく支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の趣味や拘りを大切に髪型や洋服などおしゃれを楽しんで頂きその人らしさを活かせるよう支援しています。男性の方は毎日髭剃りをし清潔感を大切にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のリクエストを聞いたり、旬の食材を使い工夫しています。個々に合わせた食事形態で提供しおいしく安全に食事が食べられるよう支援しています。	希望の献立、行事食やおやつ作りで食事を楽しんでいる。利用者は食器洗い・拭き、お盆拭き等のできる事を行っている。食の進まない人には好物を出している。TVの話題を取り込み、皆で会話が弾むようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量や食事をチェックし必要な栄養が取れるよう支援しています。水分摂取が困難な方には、お茶ゼリーやとろみをつけるなどし、ジュースなどで代替するなど工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせて毎食後口腔ケアを実施しています。歯科衛生士の方から口腔ケアの指導を受けています。		

グループホームあすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録にて個々の1日の排泄パターンを把握しトイレ誘導し残存能力を活かしてできる限りオムツ使用をしないよう支援しています。	その人に合わせた誘い方や言葉掛けをして、自立に向けた支援をしている。牛乳やヨーグルトの摂取で自然排泄できるように努めている。夜間もトイレ誘導したり、足音を確認し見守りしたりしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンを把握し乳製品や食物繊維の豊富な物を提供し自然に排便できるよう工夫し便秘がちな方は医師と相談し下剤を使用し排便出来るよう支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間や曜日は職員都合になっていますが体調を見ながらゆっくり入浴を楽しめるよう支援しています。重度化した方はバスタブを使用し浴室へ行き体の洗浄とかけ湯をして体を温めています。	入浴時間・入浴順やシャンプー等は希望に合わせている。シャワー浴は毎日でも入れ、職員が抱っこし浴槽に入る人もある。季節に合わせて菖蒲・ミカン・柚湯を楽しんでいる。嫌がる人には声かけを工夫し、時間を変えて入浴や清拭をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせて、居室内の温度や寝具類の調節を行い、快適に睡眠がとれるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で情報共有し、副作用や異変に注意を払い、往診時に主治医に様子や症状を説明し、薬の追加や減薬、中止の指示を受け嚥下が悪い方は粉薬に変更するなど個々に合わせた服薬支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節を感じられるようなレクリエーションや(干し柿作りや花見、花火大会)や行事食を取り入れたり一人ひとりの得意なこと楽しみごとを把握し日々の生活に取り入れ張り合いや喜びを感じていただけるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設でも外出行事等行っていますが、家族の方の協力で自宅に帰られたり、外食やお墓参りなど本人の希望に寄り添いながら支援しています。	希望に沿って買い物や外食に付き添っている。気候や天気に合わせて、散歩等にも出掛けている。外出行事として初詣、花見や祭見物等にも出掛けている。居住階以外の1階や3階にてお茶を飲み気分転換している。家族に協力を得る時もある。	

グループホームあすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の方がお金を管理することが困難なため、家族の方からお金を預かり可能な方は、買い物へ行かれた時本人へお金を渡し支払いをいただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が自ら電話などされませんが、職員の援助により家族や友人の方に電話をかけたり職員と一緒に暑中見舞いや年賀状を作成し、家族や友人などへ送れるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気大切に、季節に合わせた飾りつけをしカレンダー以外でも今の季節が分かるよう工夫しています。入居者の方の塗り絵や写真を掲示し、明るい雰囲気を出せるようにしています。	廊下や壁面に利用者の作品や季節の飾り物を掲げている。廊下にソファや長いすを置き、自由に腰掛けられるようにしている。リビングで一人TVを見たり、食堂で雑談したり利用者それぞれ好みの場所で過ごしている。冬季は湿度、夏期は室温に注意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係を把握し、リビングルームの席の配列などを考慮し、各フロアにベンチやソファを置き会話をしたり休息できるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、本人が落ち着いて暮らせるよう、馴染みの物や写真や使い慣れた物を居室に置き、居心地よく暮らせるよう工夫しています。	使い慣れたTV、タンス、櫛、化粧用具、時計やイス等を持ち込み、写真、祝い色紙、自分の作品等で飾っている。ベッドの向き、室温や夜間の照明等も希望に合わせて調整している。猫好きな人は、多種の猫の縫いぐるみや写真で飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、入居者が安全に暮らせるよう工夫しています。居室内は個々に合わせて使いやすい場所に家具を配置しています。		

1 自己評価及び外部評価結果(2ユニット目「入居者なし」のため無記入)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190103768		
法人名	(株)グレースホーム		
事業所名	グループホームあすか		
所在地	岐阜県岐阜市美島町1丁目18番地		
自己評価作成日	2019年6月25日	評価結果市町村受理日	2019年8月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/ndex.php?acti%on%kouhou%detail%022%kani%true&J%gvsyo%Q%2190103768-00&Servi%ce%Q%320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	2019年7月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	2. 利用者の2/3くらいの	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいの	4. ほとんど掴んでいない			3. 家族の1/3くらいと	4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	2. 数日に1回程度ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	2. 数日に1回程度
		3. たまにある	4. ほとんどない			3. たまに	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらいが	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが	4. ほとんどいない			3. あまり増えていない	4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらいが	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが	4. ほとんどいない			3. 職員の1/3くらいが	4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらいが	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが	4. ほとんどいない			3. 利用者の1/3くらいが	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらいが	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが	4. ほとんどいない			3. 家族等の1/3くらいが	4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらいが				
		3. 利用者の1/3くらいが	4. ほとんどいない				